

ASANET

NO.174
2021
11.20

あさどっとねっと 広島県中小企業家同友会 広島安佐支部報

発行：広島県中小企業家同友会 広島安佐支部 広報委員会 編集責任者：広島安佐支部 広報委員長：新谷慎一
広島市中区中町 8-18 広島クリスタルプラザ 8F TEL：082-241-6006 FAX：082-241-6007

経営フォーラム2021 第2分科会

松下仁氏

報告者(株)ジェイ・スマイル代表取締役
(広島同友会 安佐支部・細支部長)



Writer

平和不動産販売(株)

徳原 央樹 氏
(安佐北地区会)

平和不動産販売は、お客様の夢や希望を叶える家探し・お部屋探しのサポートをしています。親切・丁寧な対応を心がけ、広島で一番元氣な不動産会社を目指します。



広島県 働き方改革推進・働く女性応援課 取組サポートサイト
Hint ひろしまにも掲載! ↓

かけがえのない地域になくってはならない会社へ！
～「女性活躍推進」「もっと近くて便利に！」～



この度、経営フォーラム2021の広島安佐支部代表として、(株)ジェイ・スマイルの松下社長に報告者としてお話しいただきました。報告テーマを「かけがえのない地域になくってはならない会社へ！」と題し、脱サラ後にセブンイレブンオーナーとして活躍されている松下さんに女性活躍機会の創出と苦勞、そして時代と共に変わる地域住民にとって必要なサービスの提供など、数々の新事業に取り組まれてきた貴重な体験について語っていただきました。

「自分だったらあなたの会社で働きたくない」と同友会会員の仲間からの一言で、自分の未熟さに気づき、学びを深められたそうです。

求人社員教育委員会等の同友会活動を通して、指針書の作成、社員との対話、やる気のある女性社員の店長抜擢、など自分を変えたことで社員も変わり、家族経営から脱

却されたそうです。

近年の新事業としては、高齢化が進む地域の自社のファンのお客様へのサービスとして、セブンイレブン社長の決裁を経て始めた「セブンあんしんお届け便」や自社で開発した「揚げ物の無い小むすび弁当」の販売を行う等、全国初の試みを従業員一同で取り組まれておられるとの事です。

今回の松下社長の話を伺い、私は2つのことを学ばせていただきました。ひとつは「男女や年齢の区別無く、向上心のある従業員を信頼し、仕事を任せることで社員の成長の場を作る事が大事である」ということ。もうひとつは、「お客様の年齢や地域の課題等から変化する顧客ニーズを察知し、応えることで地域に愛される会社になれること」です。弊社のように地域住民をお客様とする業種の企業では、いかに永続的にお客様から選んでいただける

企業になれるかが課題です。実際に松下社長のお店を利用されている方からも『従業員さんの挨拶が他店とは違う』という感想もあり、生き生きと従業員が働ける環境づくりができていることでお客様にも喜んでいただける店になっていると意見がありました。

今回の報告でお客様に選んでいただける会社、つまり地域になくってはならない会社になる為のひとつの答えを見せていただきました。

経営者が考え方を換え、良いと思った事を即実行し、私が社員の立場なら「この社長についていきたい」と思われる会社になる為に、自分も努力していかなければならないと感じました。

これからは地域にも目を向け、弊社がこれまでお手伝いさせていただいたお客様、そしてこれから出会うお客様の為にできることを探していきたいと思います。

【令和3年度 広島安佐支部スローガン】

広島安佐支部会員数 11月1日現在会員数 137名

EN (えん) to AI (あい) ～人が繋がる経営をめざして

地域内連携推進 フィールドワーク例会



「地域の課題と資源を理解しよう」 ～大林の間伐材の現状を知って、 地域資源である広島北ビール醸造所をめぐるフィールドワーク～

Writer

(株)YMTM
松本 有示 氏

(株)YMTMでは、お客様の「キレイ」「カッコいい」を総合的に提供する美容室、「ワンヘアー」や「Hair's β (ヘアーズベータ)」などを運営している。



協力：大林間伐材再生研究会/大林愛林会

https://www.facebook.com/nobuyashikita-hai-su/?ref=py_c



広島北ビール(株)
平本裕也 氏

<https://hishimaki-la-beer.com>



10月23日(土)、地域内連携推進フィールドワーク例会「地域の課題と資源を理解しよう～大林の間伐材の現状を知って、地域資源である広島北ビール醸造所をめぐるフィールドワーク～」が大林間伐材再生研究会/大林愛林会の皆様と広島北ビール(株)平本裕也氏のご協力のもと開催されました。

大林の森でのフィールドワークでは、昨年SGDs例会で講師を務めてもらいました、一般社団法人「ふるさと楽舎」の秦野さんにガイドを務めて頂き、間伐材に関する様々な問題についてお話して下さいました。

問題の一つに、森林の保全事業を行う組織が不足していることが挙げられます。森林の保全事業は収益性が低く、補助金を受けても利益を計上できないことがあることから慢性的に森林保全事業を運営する企業が不足しています。したがって、残りの森林の保全活動は慈善団体によって行われるか、放置されてしまうというのが実態です。

また、ウッドショックによる木材価格高騰の問題もあります。広島県からは木材仕入れのために大林の木を伐採してほしいと要望を受けているそうです。しかし、伐採を過剰に行えば土砂崩れを引き起こすリスクも

同時に抱えています。地域の自然環境を取り巻く問題についてのお話を聞き、そして実際に森を歩き、間伐材の問題を目の当たりにして改めて地域に根づく中小企業の我々も地域の里山保全に協力しなければいけないと実感しました。

フィールドワークの後には、広島北ビール(株)さんへ訪問し、ビールの製造工程を見学させて頂きました。印象に残ったのは、お米を使用したビール「郷乃米麦酒」。原材料であるお米は、「ふるさと楽舎」さんによって大林地区の休耕田を耕して収穫されたものです。こちらのお米をビールの基礎となる麦汁を造る工程で混ぜることによって地ビール「郷乃米麦酒」が作られています。製作に至った経緯は、地域課題解決に取り組む「ふるさと楽舎」さんが、「地域で生産されたお米を使って何かできないか」と広島北ビールの平本さんに相談を持ち掛けたことから始まります。SGDsに関心を持っていた平本さんがこの企画を快諾したことにより商品化の実現に至ったそうです。地元の方々と協力しながら地域を活性化されている姿を見て、まさに地域内連携の実践に取り組まれているなと感じました。

その後、平本さんたちがやっている可部駅裏の樽通り(飲食店が立ち

並ぶ街道)を訪れ、そこで1年6カ月ぶりの懇親会を開催しました。平本さんを含む若手経営者の方々が過疎化してしまった可部を盛り上げるため、皆で協力しながらこの樽通りを立ち上げられたそうです。

森林の間伐材課題について、そして地域の過疎化問題についてなど、本当に多方面で地域内連携に取り組まれていました。

この度は、西支部の会員さんとオプザーバーの方にも参加して頂きました。12月には西支部の地域内連携委員会で、「安佐南区を歩く(探索)」を実施されるようです。地域の方々と関わりを持ち、地域の発展を共に担うことが、真の「地域に根差した企業」であることを今回の例会を通して学びました。是非西支部さんの地域内連携委員会にもご参加ください。



間伐材を使った里山保全
×
SDGsパッチ

トーホー(株)と大林間伐材再生研究会が連携し、SDGsの取り組みをPRするパッチを製作。パッチの購入が、大林地区の里山環境を持続可能なものにする取り組みにつながります。

トーホー(株)

http://www.toho-beads.co.jp/information/new_item/2020/20200402_009073.html

